

まごころ

with all our hearts

magokoro

Vol.

47

August  
2011

このたびの東日本大震災で被災されましたみなさまに、謹んでお見舞い申し上げます。

▶ Customers Information お客様訪問レポート

株式会社 辰巳食品 代表取締役 辰巳 仁章 様

## エコへの取り組みは働きやすい環境づくりのひとつ

▶ Report

作業所レポート

作業所「ワコーレ甲南山手リンクス」 工務部 主任 武本 裕弘

### コミュニケーションと環境づくりを大切に

作業所「N\_VIE御影城ノ前」 工務部 石見 和運

### 目の前のことを大事に全力で取り組んでいく

▶ Report

安全と安心委員会

安全と安心委員会 委員長/リノベーション部次長 梅田 育敬

### あらゆる面での質の向上と

### 住民の方々とのより良い関係を育むために…

▶ Information

東日本大震災募金

AED設置を受ける

献血

町内清掃

▶ Report

社内改善レポート







緑が眩しい屋上緑化は節し効果抜群

## 「安心・安全」をより深く考えて 国際的な基準であるHACCP取得へ

— 今回、弊社にご依頼いただいた工事は、HACCP取得への取り組みのひとつということですが、HACCPとはどういったものなのですか？

HACCPは1960年代に米国で宇宙食の安全性を確保するために開発された食品の衛生方式です。食品の製造工程上で衛生的に危害を起こす要因を科学的に分析し、管理方法を決めて実施。それを記録していく管理方法なのですが、これによって従来ではなし得なかった食品の安全性が高いレベルで効率的に確保することができるのです。

日本ではここ10年くらいの間で大手企業の7~8割が取得。ただ、中小企業ではまだまだ慣例化されていないため、弊社が取得できたら企業としてのブランディングにもなると思っています。

— 中小企業ではまだまだ浸透していないHACCPを、なぜ取得しようと思われたのですか？

数年前から食の安全が声高に謳われるようになりましたが、弊社では創業以来「安心・安全」を一番に考え、そのために必要な最新設備も投入、社員の意識向上などにも積極的に取り組んできました。ベースにあったのは、会社としてのそういった想いです。

弊社は、業務用のだしや削り節を扱っており、最近ではアメリカやオーストラリア、韓国など海外への輸出も増えてきています。ところが、アメリカなどは衛生面での規格がとてつもない。そういった状況のなか、国際的な衛生管理方法であるHACCPを取得することは、今後を見据えたうえでとても重要なことだと感じました。そこで、ハード面の充実を図るため、20年来のお付き合いのある村上工務店さんに今回工事を依頼することになったのです。

お陰様で工事も順調に進んでいるので、12月ごろには

# エコへの取 働きやすい

創業から60年に渡り、業務用のだしや削り節を作り続けてきた「株式会社辰巳食品」様。心地よい海風を感じる本社ビルの屋上には、青々とした芝生と太陽光パネルが設置されています。数年前より環境を考えたエコに精力的に取り組むとともに、現在は、食品の安全性を測る国際基準「HACCP」取得を目指されている。株式会社辰巳食品の代表取締役・辰巳仁章様にその取り組みについて語っていただきました。

株式会社 辰巳食品 代表取締役

辰巳 仁章 様

HACCP取得の申請を出せるのではないかと考えています。

## 自然エネルギーの活用で効率&生産性アップ

— 以前から太陽光パネルを取り入れるなど環境に配慮した取り組みをされていますが、エコに対しての意識は高かったのでしょうか？

環境問題に関心がある、というわけではなく、自身のなかにあった「こんな風になればいいなあ」という会社のイメージのなかのひとつ、会社のあるべき姿のひとつ、としてエコというものを捉えていました。

そんななか、自然エネルギー&省エネルギー事業を行う【ワット神戸】から声をかけられ、環境問題に取り組む企業に行政から助成金が出ることを知ったのです。そこで、いろいろと考えていくうちに、そういったことに取り組むのは今が一番いいんじゃないか、と2009年12月に太陽光パネルを設置するに至りました。これを皮切りに、屋上の緑化や工場内の照明をLEDに変更するなど、現在に至るまでさまざまな取り組みを行ってきました。

— 太陽光パネルの設置や屋上緑化をはじめ、HACCPへの取り組み以降、社内に変化はありましたか？

基本的に、何か新しいことに取り組む際のベースには、働きやすい環境をつくる、という想いがあります。どれだけいい取り組みであっても、たとえ経費が削減されても、生産性や売上げまでもが下がってしまえば本末転倒です。環境面の充実も大事ですが、やはり仕事をするのは人。従業員みんなが働きやすいかどうか、すべてはそこを基準にした取り組みになっています。そのため、電気代は年間60万円ほど削減され7年前と同じくらいになったのに対し、生産は当時の2倍に。効率と生産性が大幅にアップしたのです。結果的に売上げもしっかり維持できています。

ちなみに、屋上緑化も電気代の削減に役立っているのです。



# り組みは 環境づくりのひとつ

すが、意外な副産物をもたらしてくれました。会社内に緑があるというのが精神的な癒しになっているのか、社内の雰囲気が変わりましたね。溜めた雨水を自動的に散布するシステムになっているため、年に1回みんなで雑草刈りをするくらいでメンテナンスも楽。働きやすい環境をつくる、という部分でいい役割を果たしてくれています。

## 基本的に「我慢する節電」はしない

— 3月11日の震災以降、日本全体が節電モードになっていますが、新たな取り組みなどはされているのですか？

もともと太陽光パネルや屋上緑化によって電力使用は抑えられていましたので…あらためて何か、ということはありません。今回、工場内の照明を蛍光灯からLEDに変更しましたが、これもあくまでも働きやすい環境を考えたいという取り組みのひとつ。弊社では基本的に、従業員のモチベーション低下に繋がるような「我慢する節電」はしていません。ただ、会社として環境面でのさまざまな取り組みを行っていくうえで、私と同じような意識が自然と従業員たちのなかに根づいていっていたようで、今回の震災以降、その意識がより高まっている感じを受けています。

## 組織としての力と働きやすい環境づくりを

— 環境への取り組みを含め、今後はどのような展望を描かれているのでしょうか。

こうした取り組みが評価されて、近年では工場見学の訪問者が増えてきています。それもあってか、もう少しこういうことをしたいな、というアイデアが頭のなかにはいろいろとあります。ただ、環境やエコといったことだけでなく、会社としてどう歩んでいくのかといったことも考えながら取り組んでいく必要があると思っています。

会社を大きくしすぎてもダメですし、かといって小さすぎても何もできません。ホテルや専門飲食店などをメインターゲットとする弊社は、外食産業の景気状態に比例して動く部分が大いなのです。だからこそ、売上げが3割Up・Downしてもどちらにも対応できるよう、常に両方のオプションを考えると同時に、価格競争に巻き込まれないためにある程度の設備投資も必要だと思っています。ここだ！ というタイミングをしっかりと見極めて動けるような組織としての力をつけるよう心がけています。

何より、社員をはじめパートの方々など、従業員みんなが気持ちよく、かつ効率的に働ける環境づくりを続けながら、目指す会社のカタチに近づけていきたいと思っています。

— ありがとうございます。



屋上に敷き詰められた太陽光パネル



蛍光灯からLEDに付け替えられた工場内の照明

## 社屋建設時からの20年来のお付き合い

施工：村上工務店

リノベーション部 課長代理 安瀬地 健一

今回は、HACCP取得を見据え、工場内電気のLEDへの付け替え工事などを実施。食品を扱う工場内での作業ということで、衛生面に気を遣うとともに業務に支障が出ないようスピーディな工事を心がけました。

辰巳食品様とのお付き合いは、社屋建設時以来20年近くになります。当時の社長（現会長）もそうでしたが、現社長も私たちが信頼し、楽しく作業させてくださることに感謝しながら業務に励んでいます。



株式会社 辰巳食品

〒653-0045 神戸市長田区駒ヶ林南町1-79 神戸インナー第4工業団地内

TEL.078-737-1177 (代) FAX.078-737-1179

<http://www.tatsumifoods.co.jp>



作業所レポート①

# コミュニケーションと環境づくりを大切に

住宅街のなかに建つお洒落な新築マンション「ワコーレ甲南山手リンクス」。販売即日に完売となったこの物件の作業現場を、見えた目通りのおだやかさで静かにまとめてきた所長に話を聞きました。



作業所 「ワコーレ甲南山手リンクス」 工務部 主任 **武本 裕弘**

## 責任の大きさだけ やりがいと達成感を感じる

— 「あんまり感情を表に出さない」と言うように淡々と話しながらも、その言葉はユーモアに満ち、発する空気には優しさとおだやかさが滲んでいる。自分のなかでは、所長としてどういったことを大切に日々の業務に向き合っているのだろうか。

「現場環境を良くすることは大切だな、と思っています。なので、掃除をして詰め所をきれいにしたり、職人さんが働きやすい環境をつくったり。また、必要に応じて、適度に現場に出るようにも心がけています」

— でも、まだまだですよ、と笑う。では、所長という仕事をどう捉えているのだろう。

「やはり、大きな責任が伴う立場なので、大変ではあります。ただ、大変な分だけひとつの物件を終えたときの達成感は大いいですよね。今回の物件には施主さんのこだわりもあったので、検査が済んで、内覧会が終わ



ワコーレ甲南山手リンクス 外観

ってはじめてホッとすると同時に達成感を感じました」

## 所長としての経験が 自分を成長させてくれた

— 所長として臨んだ初現場はワンルームマンション。それ以降ずっと分譲マンションの現場で経験を積むなかで、自身にとっての大きな転機があったという。

「4年くらい前にある物件に携わったことが、今までで一番大きな出来事だったように思います。ちょうど、ワンルームマンションをはじめて所長として担当した後の分譲物件でした。ワンルームと普通の分譲マンションとでは間取りも仕様も違うので大変ではありましたが、所長として一人で現場に携わった経験が思っていた以上に自分を成長させてくれたことを感じたんですね。ワンルームの仕事を終えたときはわからなかったんですが、その後に現場に立ってみてはじめて、あ〜成長したんだな、と。それを感じられたことは、自分のなかではひとつの転機だったな、と思います」

— 優しいだけではなく、しっかりした軸を持ち、人の良い面を見て接していく。おだやかさの源は、子どもの寝顔と休日の触れ合い。その笑顔の先に見ている未来とは……。

「もっともっと職人さんたちが働きやすい環境を作るとともに、どっしり構えた所長になりたい。あとは、ずっとマンションばかりだったので、たとえば大きな木造の建築物とか、ちょっと違ったものをやってみたいですね」

武本所長はこんな人

### 見た通りの真面目でおだやかな人



工務部主任  
西原 宏治

良くも悪くも真面目(笑)。ときに真剣にやりすぎてしまうこともあるほど。見た目通りおだやかで優しいので怒られることはないですが、業者の方にはよく声をかけている姿を見ますね。とにかく、一生懸命頑張る人だと思います。

### 裏表がなく接しやすいし、働きやすい



工務部主任  
古西 剛

見たままのおだやかで優しい人。コミュニケーションを過剰にとる方ではないけれど、要所要所では現場に出て声をかけていますね。裏表がなく接しやすいですし、同じ現場は今回初めてですが働きやすいと思いますよ。



## 作業所レポート②

# 目の前のことを大事に 全力で取り組んでいく

阪急御影駅から徒歩10分。幹線道路沿いに建設中の9階建て新築マンション「N\_VIE御影城ノ前」。人懐っこい柔和な笑顔の奥にも強い信念が垣間見える現場所長に、胸に秘めた意気込みを語ってもらいました。

## 作業所 「N\_VIE御影城ノ前」

## 工務部 石見 和運



## 先のことを考えるより 目の前のことを大事にする

— 決して鏡舌とは言えないが、考えてから選び出す一言一言に静かな強さが透けて見える。若手と呼ばれる立場に立つ所長として、現在をどう捉え、今後の自分をどう描いているのだろうか。

「将来的にこうなりたい、というのはあまりないですね。先のことをあれこれ考えるより、目の前のひとつひとつを大事にしていきたい、と思っています」

— あるエピソードがその想いを物語っている。

「今回の工事に入る前、神戸市教育委員会による文化財の発掘調査が行われました。当社は、準備工事として山留工事を請け負ったのですが、その際に近隣マンションから苦情が出たんです。この作業中に起こっていた予想以上の振動が理由。隣接するマンション住民の方々は絶えず大きな揺れを感じているような状態だったんです。住民の方々の立場に立てば怒って当然ですね。謝罪と説明に回ると同時に、早急に防音シートを張るなどの対応をとったことで、皆さんも納得してくださいました。このことに限らず、今の自分にできる最善を尽くすことで、周囲の理解や安心に繋がっていくのではないかと、思います」

## 先輩の良さを受け継ぎながら 自分らしさを出していきたい

— 「まだまだ日々勉強です」と笑うように、物事に真摯に取り組みながら、日々学びを重ねている。今まで色々な物件に携わってきたが、そのなかでも一番勉強になったのが2年ほど前のある物件だった。

「現場の段取りをはじめ、職場環境をきれいに保つことや職人さんたちとの接し方、そういったすべてのことへの細かい心遣いの大切さを痛感しました。所長として現場に携わる、ということは、すべてを自分で考え、判断していかなければならないため、見えないプレッシャーや大きな責任が伴います。でもその一方で、その現場に自分なりの色や個性を出していくことができる、という楽しさややりがいもあると思います。先輩方のいいところを受け継ぎながらも、少しずつ自分なりの環境づくりやコミュニケーションの取り方を見出していきたい

と思っています」

## 繊細さと度胸を兼ね備えた 笑顔を決やさない所長に

— 所長として大事にしていることがある。

「繰り返しになりますが、目の前のことに全力で取り組むこと。そして、当たり前のことを当たり前にする、ということ」

— 先ことはあまり考えない性格、とは言うものの所長としての理想の姿をこう描いている。

「絶対的な知識を持っていることは当然のこととして、細かい気遣い（気配り、心配り）ができて、度胸もあって、どんなことにも笑顔を決やさず対応していける人になりたいです。そうなったら、超高層の物件をやってみたいですね」

— その原点にあるのは幼少期に描いた夢…。

「幼稚園のころ、好きで遊んでいたのが“レゴ”。“レゴ”を通してブロックを組み立ててものを作る楽しさを知りました。小学生のころの作文に書いた将来の夢は「大工さん」。子どものころに夢見た世界で、今後も所長として頑張っていきたいと思っています」



エヌヴィ御影城ノ前 建物バース

## 石見所長はこんな人

## 気配りのできる面倒見のいい人



工務部  
柏木 祥平

事務仕事だけでなく、現場で率先して片付けをしたり、場の空気を読んで周りに気配りをしたり…基本的にはまじめですね。面倒見もいいし、いろんなことを器用にこなす人で、実は料理がうまかったです(笑)



安全と安心委員会

# あらゆる面での質の向上と 住民の方々との より良い関係を育むために…



昨年から発足した「安全と安心委員会」。  
その名の通り、現場の「安全性」向上のための取り組みを通して  
お客さまに「安心」を感じていただける意識づくりを推進しています。  
現在の具体的な取り組みと今後の展望について「安全と安心委員会」の委員長に聞きました。

## 生活をしながらの「マンション大規模工事」 住民の方々の安全を守り、安心を提供

安全と安心委員会 委員長  
リノベーション部次長

梅田 育敬

近年、「マンション大規模工事」の需要が高まるなか、他社との差別化をどう図っていくのか。そこで、品質の向上は当然のこと、お客さまである住民の方々とのより深いコミュニケーションを目指し、当委員会が発足しました。

「マンション大規模工事」のお施主さんは、そのマンションに住まう住民の方々。新築工事と違い、皆さんが日常生活を送るなかで工事を進めていかなければならないため、色々な意味でご迷惑をおかけすることも増えてきます。そのため、工事そのものもそうですが、工事期間中にどれだけ安全かつ安心した暮らしを送っていただけるか。それが、お客さまの満足にも繋がってくるのです。不快な状況をできるだけ緩和し、住民の方々とのより良い関係を築いていくために、当委員会では書類の統一化やマニュアルの見直し、改善点の提案などに取り組むとともに、現場に携わるすべての従業員の意識向上に努めています。

### ●書類の統一化

マンションエントランスの掲示板には、住民の方々へのお知らせをはじめスタッフ紹介など、さまざまな情報を貼り出しています。現在でこそ、見やすくわかりやすい形式になっていますが、当委員会が発足時にそれぞれの現場を巡回してみると、書類のフォーマットが統一されていないばかりか、誤字脱字が多く見受けられました。些細なことのようにですが、そういったことが住民の方々の不安に繋がっていきます。そこで、現場で使われる書類を整理し、統一化を図りフォーマットを作成。その際に一番重要視したのは、わかりやすく見やすい形式であること。

現在は、このフォーマットをベースに各々の現場の個性をアレンジして使用していますが、誤字脱字もなくなり、とても見やすい掲示になっています。それによって、住民の方々との会話や触れ合いも増えてきています。

## 社会貢献活動

Information  
社内ニュース

### 東日本大震災募金

3月11日に発生した東日本太平洋沖地震。阪神淡路大震災を上回る規模の地震に加え、直後に襲った津波、未曾有の被害を受けた東北地方の人々のために「自分たちにできることを」と、地震発生3日後の3月14日から本社受付に募金箱を設置。社員はもちろんのこと、来社されるお客様にも募金協力を呼びかけました。

3月29日に第一回目の集計を行ったところ、305,321円もの募金が集まりましたので、神戸新聞厚生事業団へ寄付。震災復興支援の一助となることを心より願っています。

なお、募金箱は現在も本社受付前に設置、募金活動は継続的に行っています。



Information  
社内ニュース

### AED(自動体外式除細動器)の設置

社内の改善提案の意見のひとつとしてあった「AEDの設置」を今年から行っています。以前より、神戸市建築協会災害奉仕委員会の「1000人の救命救急士をつくろう!」という企画に基づき、社内でも市民救命士の資格取得を推進してきました。「AED」に操作方法は記載してありますが、しっかりと講習を受けた資格保持者をより多く要しておくことは、救急時に冷静に対処できる態勢を整えておくことに繋がります。

「AEDの設置」を通して、地域で何かがあったときに一人でも多くの社員が俊敏かつ的確に対応できるよう、今後も努めていきたいと考えています。



人形を使ったAEDの使用練習





## ●現場パトロール

現在、月に1回、現場を持っている委員会メンバーが各現場を回り、コミュニケーションが円滑に図れているか、住民の方々の生活に不具合が生じるような問題はないか、確認しています。パトロールする際は、できる限り住民の方々の目線に立って物事を判断していくように心がけ、そこで感じたことや気になったこと、聞こえてきた声などを委員会にフィードバックし、修正していくようにしています。この定期的なパトロールが功を奏し、現場の担当者の意識も向上。フェンスをきれいにしたり、新しいシートを使用したり、管理事務所の外に花を置いたり…それぞれの現場担当者の考えでより良い環境づくりが行われています。

## ●社員アンケート

住民の方々からの苦情や改善すべき点、それに対してのアイデア、お客さまの立場に立った意見など、社員にアンケートを取り、ここで出てきた問題を現場にフィードバックして対応していくようにしています。また、従来のリノベーションのノウハウに、これらの意見と委員会のアイデアをプラスしてマニュアルの見直しなども行っています。こういった取り組みにより、お客さまからの苦情に多かった挨拶の問題などが解消。住民の方々と現場の職人さんとの距離も近づき、より良い関係が築けるようになっていきました。

一方で、「職人さんたちが大声で話していると怖い」とか「たばこの臭いが気になる」といった意見も。何気なくしている言動ではありますが、そういった細かいことも含めてまだまだ改善していかなければならないことはあります。さらに、「塗料の臭い」に関する声もあがってきているのですが…これをゼロにすることは難しい。かといって、「仕方がない」で片付けるわけにはいきません。住民の方のなかにはアレルギーを持っている方がいらっしゃるので、各現場で最善の対応をとっていきようアドバイスしています。

社員アンケートや先述の現場パトロールを通して気づいたことは、どんなに細かいことも現場にしっかりとフィードバックし、朝礼などを通して各々の現場で徹底した対応を心がけるよう伝えています。

## ●勉強会と月1回の委員会

「マンション大規模工事」に携わる社員向けに、現場における「安全と安心」についての認識をしっかりとってもらうための勉強会を開催。近々、協力業者さん向けの勉強会も予定しています。

また、5名のメンバーで月に1回委員会を実施。マニュアルや書式、アフターサービスの見直し、新しい書類の作成などを中心に、お客さまに安心と信頼を感じていただくための取り組みについての話し合いを行っています。さらなるステップアップを目指していこうという高い意識とやる気を持ったメンバーばかりなので、今後も「安全と安心」をキーワードにさまざまな取り組みを考えていきたいと思っています。

## 安全であることが安心を生み 確固たる信頼につながっていく

当委員会が「委員会」として成立したのは今期から。目的は、品質の向上と住民の方々とのコミュニケーションの円滑化。そのためにまず行ったのが、建築や工事がわからない女性社員を現場へ同行すること、でした。常に現場に携わっている人間では気づかないことがあります。でも、一般の女性社員の目線というのは、住民の方々と同じ。そこで気づいたこと、気になったことなどを自由に言ってもらったところ、やはりたくさん気づきがありました。そこから、さまざまな取り組みがはじまったのです。それ以来、現場の意識は向上し、現在ではどの現場でもしっかりとした認識ができています。

とはいえ、まだまだ改善の余地はあると思っています。常に住まう方々の目線に立って考える意識を協力業者さん含め現場従事者全員が持つこと。その意識統一こそが、さまざまな面においての質の向上に繋がり、お客さまへ「安全と安心」を提供することができるのだと思います。そして、何より大切なのは、一時的ではなく継続していくこと。今後も、現場に携わる一人ひとりへのしっかりとした意識づけにより一層の力を注いでいきたいと思っています。

## Information 献血

社会貢献活動の一環として昭和59年にスタート。平成5年からは春秋の年2回の実施となり、平成23年春期時点で計47回を数えるまでになりました。開催2〜3週間前には、近隣の喫茶店や美容院、自治会の掲示板等にポスターを貼付させていただき、近隣の方にもご協力を呼びかけています。結果、現在までに述べ1970人の方々の協力のもと、約628ℓ(牛乳瓶3140本分)を献血。その活動と実績が評価され、平成20年には厚生労働大臣の感謝状もいただきました。

現在では、参加者の半数が近隣の方々になるなど、地域に根づいた活動になっています。



## Information 町内清掃

日ごろ、ゴミやホコリ、騒音等で建設現場周辺の方々にご迷惑をおかけしていることを心苦しく感じ、せめて地域社会に貢献したい、との目的ではじまりました。

毎月第3土曜日、約30名の社員で主に三川口町内を清掃。地域住民の方々からも「ありがとう」と感謝のお言葉をいただいています。平成9年7月に第一回目を開催して以来、平成23年6月時点で実施回数は述べ180回。今後も、社員一同、地域の方々に気持ちよく過ごしていただけるよう努めています。



町内清掃の様子





スマイル  
Murakami GC

# 社内改善レポート

全社員より社内の改善ポイントを募集。  
現在実施されているものをいくつかご紹介します。



「検討中」や「準備中」などに振り分けられ  
ホワイトボードに貼付された提案事項



改善  
POINT  
①

本社エントランスにあるロビーの壁にかかっていた絵画が  
会社の歴史がわかる表とイラストに変更されました



改善  
POINT  
②

本社エントランスに入っすぐの壁面には  
弊社が携わった物件のポスターを貼付し紹介



改善  
POINT  
③

本社玄関のスペースに観葉植物を設置  
温もりのある空間に姿を変えました



改善  
POINT  
④

意外と多くの声が寄せられたのが洗車道具の導入  
その甲斐あって社用車はいつもピカピカです

## 番外編

### 積極的に節電に取り組んでいます

震災による今夏の節電要請に応える意味合い  
だけでなく、以前より【KEMS】に基づいた節電  
に各部署で取り組んでいます。

その一環として、毎週水曜日をNO残業デーとし、  
電力消費を抑えるよう努めています。